

組織目標評価報告書（令和6年度）

部局名： **グローバル人材育成院**

部局長名： **鈴木 孝義**

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①質保証の伴ったSDGs国際教育プログラムを充実するため、対面実施が再開している米 国務省重要言語奨学金(CLS)プログラムの準備を整え、着実に実施するとともに、次年度以降 の継続に向けた検討を行う。	(7-1)	①米国務省重要言語奨学金(CLS)プログラムを実施し、全米各地から選抜された25名の学生が参加 した。プログラムでは、国際学生シェアハウスで日本人学生とCLS学生が共同生活を送りながら活発に交 流を行った。アメリカンカウンシル(AC)によるプログラムの全体評価は5段階中4.24であり、ほとんどの 学生が4又は5の評価であった。
②質保証の伴ったSDGs国際教育プログラムを開発するため、研究科との協力により、海外 協定大学と連携し、DXを活用して学ぶオンライン共同学習プログラム及びそのコンテンツの 開発に着手する。	(7-1)	② 環境生命科学研究科と協力し、ノンラム大学(ベトナム)等の協定校と協議を続けており、12月に岡 山大学主催で「International Conference on Sustainable Agriculture and Environment」を開催した。
③優秀な留学生の獲得のため、大学院予備教育特別コースの安定的運用に取り組むととも に、今後のコースの在り方などを検討する。	(7-1)	③大学院予備教育特別コース(プレマスター)について、今年度は26名が入学し、大学院での研究で必 要となる学術日本語能力の指導および大学院進学に向けた支援を行った。また、現行のプレマスターの 授業を全学日本語コースのひとつのクラスとして位置づけ、全学に開放するよう運用の見直しの検討を 開始した。
④学生の海外派遣の支援とグローバル教育環境の充実を図るため、グローバル人材育成特 別コースについて、海外派遣と国際体験活動を組み合わせた多様な派遣モデルを提供する とともに、新たなグローバル教育を示すカリキュラムを構築する。	(7-1)	④グローバル人材育成特別コースでは、説明会や個別相談会の開催、広報の充実などにより、2024年 度入学者コース生は前年度から12名増加し、111名となった。グローバルリーダーシップの育成や英語 力養成に重点を置いた、教育改革Target 2025に合わせた新カリキュラムやカリキュラムマップなどを策 定した。また、JETROおよび岡山商工会議所との包括連携協定を活かして、岡山の企業の海外進出や デジタル田園健康特区と地方創生をテーマとしたセミナーや講演を企画・開催した。ほか、国内外様々 な国際的な活動への参加を推奨・指導してきた成果として、One Young Worldや日米学生会議、模擬国 連など大規模な国際会議にコース生が相次いで出場した。
⑤学生の海外派遣、特に研究留学による大学院生の海外派遣数を伸ばすため、オンライン プログラムも活用しつつ、交換留学および派遣プログラムの充実を図るとともに、特色あるプ ログラムの開発や制度等を戦略的に検討する。	(7-1)	⑤学生の海外派遣は、全学を対象に実施する海外協定校等における夏季・春季短期研修やEPOK(交 換留学)、部局独自のプログラムなどにより、600名超の学生を海外に派遣した。また、新たなEPOK協 定校として、新たに4校を開拓し、協定校ネットワークを拡充した。 留学促進の取り組みとしては、JASSO派遣プログラム奨学金を77名、トビタテ(全国版及び地域版)奨 学金支援プログラムを7名、岡山大学奨学金を約190名に支援した。また、留学経験のある学生が相談 に応じる「留学準備デスク」の運営や関連イベントの開催、文部科学省が推進するSIPS(Staff & Student Initiative for Promoting Study Abroad)プラットフォームへの参加、オープンキャンパスやSNSを 活用した広報活動の強化を行った。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①SDGs国際教育プログラムの充実と海外からの優秀な研究者及び大学院留学生の受入れ促 進のため、UNCTADとの包括連携協定に基づき、短期研究者受入れプログラム(途上国からの 若手女性研究者のための共同研究・研修コース)と長期プログラム(途上国からの若手研究者の ための博士課程学位プログラム)を、研究科と連携しながら実施する。	(1-2) (7-1)	①UNCTAD短期プログラム「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」において4 名、長期プログラム「途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム」において1名を受入 れた。次年度の受入れ募集においては、対象地域をASEAN諸国及びアフリカに加えて南米にも拡充し た。
②SDGsを先導する世界的次世代リーダー育成のため、OUGEQとの連携の下、One Young World モントリオール大会及び文部科学省ユネスコ研修プログラムへの学生派遣を支援する。	(1-2)	②9月にカナダ・モントリオールで開催された「次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young World (OYW 2024)」に本学の学生2名を日本代表団の一員として参加させるための支援を行った。また、文部 科学省とユネスコ本部が共同新設したユネスコ長期インターンシップ「ユネスコ研修プログラム」に、本 学の大学院生1名を第1期生としてバリのユネスコ本部へ派遣した。
③優秀な留学生の獲得を目的とする国際同窓会の活用策として、会員及び在籍留学生を対象と する各種イベントや広報活動を通じて会員間のネットワークを強化し、留学希望者に対する本学 のPRを積極的に展開する。	(7-1)	③新規会員の獲得を目指した、学生ワークスタディスタッフの企画による、茶道や倉敷美観地区ヒストリ カルツアーなどのイベントを開催し、同窓生、現役留学生及び日本人学生との交流を深めた。また、海 外出張に際して、国際同窓会インドネシア支部やタイ支部の同窓会会員と交流し、更なる連携強化を 図った。
④海外の協定機関との学生教育及び共同研究に関するマルチラテラルな連携による国際的なブ レゼンス向上のため、国立六大学国際連携機構とASEAN大学連合(AUN)および台北大学連盟 (USTP)とのコンソーシアム間連携を強化し、学生および研究者交流を促進する。	(1-2) (7-1)	④国立六大学国際連携機構とアセアン大学連合(AUN)により、現地開催の派遣プログラム及びオンライ ンの受入プログラムの2つの学生交流プログラムを実施し、学生交流の促進を図った。
⑤海外(特に東南アジア地域)からの優秀な留学生獲得のため、日本留学促進のための海外 ネットワーク機能強化事業と連携し、日本留学セミナー、アカデミックセミナーなどを実施する。	(7-1)	⑤日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業において、インドネシアとマレーシアに、事務 所を新たに4か所開設し、東南アジア地域からの優秀な留学生獲得のための体制をさらに強化した。ま た、オンライン・ハイブリッド・対面による各種フェア・セミナーの開催やJASSO・JICA等主催のフェアの共 催など、144件の日本留学イベントの開催・参加を通じ、延べ22,452人の参加者の留学意欲向上に貢 献した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。